

# 研究活動

## 平和と開発のための実践的知識の共創

2020年4月1日より、JICA研究所はJICA緒方貞子平和開発研究所(略称：JICA緒方研究所)と名称を変更しました。2008年10月の研究所設立に尽力された故緒方貞子氏の理念を継承し、開発途上国が現場で直面する課題について政策志向の研究を行い、国際社会における日本の知的プレゼンスの強化を目指して研究業務に取り組んでいます。

さらに、日本の開発経験や援助実施国としての知見を体系化し発信するとともに、新型コロナウイルス禍後の世界のあり方、国際秩序の変化、情報社会への転換、気候変動などの今日的な課題や脅威も踏まえて、研究・発信活動のさらなる充実に努めています。これらを通じて、世界をリードする開発・国際協力研究の拠点となることを目指しています。

### 研究活動の基本方針

- (1) 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
- (2) 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
- (3) 人間の安全保障の実現に貢献する。

以上の方針の下、変化する国際社会に対応し、持続可能な開発目標(SDGs)の戦略的推進や新たな開発課題に関する研究に果敢に挑戦します。また、JICA開発大学院連携事業の一翼を担う機関として同事業を推進し、日本が培った経験を積極的に発信します。あわせて人材育成の機能と研究交流の拠点としての機能を一層強化します。

### 重点研究領域

2019年4月より、研究領域を再編し、新たに「人間開発」領域を設置しました。新5領域は、SDGsの5つのP[Peace(平和)、People(人間)、Prosperity(繁栄)、Planet(地球)、Partnership(パートナーシップ)]に対応しています。また、2020年4月より、「平和と開発」領域を「平和構築と人道支援」領域に変更しました。

#### 1. 平和構築と人道支援

紛争影響下にある社会において持続的な平和を促進する要因や阻害要因を分析します。また、人間の安全保障

における保護とエンパワーメントの関係を探求しています。これらの研究を通じて、人道対応、持続的な開発、持続的な平和に従事する多様な主体による取り組みを比較分析し、有効な支援のあり方を探ります。

#### 2. 人間開発

すべての人に対する良質な教育、保健サービスへのアクセスの保障とエンパワーメントが課題となっています。教育分野では、低中所得国における海外留学のインパクトに関する研究、日本の教育協力の歴史の分析とその発信を進めます。保健分野では、新型コロナウイルス対策に関する比較・実践的研究、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)\*推進のあり方に取り組めます。

#### 3. 経済成長と貧困削減

「質の高い成長」の概念の体系化や、日本の主要な支援事業の一つであるインフラ事業の経済社会効果を分析します。また、金融状況の研究や、アフリカ諸国の成長と貧困削減に寄与する農業支援の実証分析に取り組んでいます。政策や取り組みの効果を実証するため、介入・非介入を比較した分析も行います。

#### 4. 地球環境

開発途上国における環境問題や気候変動への対処を考察します。気候変動の適応に向けた経済的手法や、プロジェクト開発における環境影響評価手法の研究のほか、SDGs達成に向け、ASEAN諸国を対象に環境・気候変動に関する政策提言のための研究に取り組めます。

#### 5. 開発協力戦略

将来のJICA事業・戦略の方向性を導く研究を行います。日本の開発や開発協力史を総括し、その特徴を探ります。また、開発途上国の研究者とのネットワークを構築し、国際協力の潮流形成に貢献する研究や分野横断的な課題のほか、スポーツと平和に関する研究など新たな課題にも挑戦します。

### 2019年度の成果

これらの方針や領域に基づき、2019年度は29の研究プロジェクトを実施し、その成果の発信に努めました。

#### 1. 研究成果の発信

20本のワーキング・ペーパーを発行。また、「アジアにおける都市大気環境の改善」をテーマにポリシー・ノー

\* 「すべての人が、生涯を通じて健康増進・予防・治療・機能回復に関する基礎的なサービスを、必要ときに負担可能な費用で受けられること」を示す概念。

トを発行しました。研究プロジェクト「日本の開発協力の歴史」では、研究結果を取りまとめるためのバックグラウンドペーパーを5本作成しました。

研究成果を書籍としても取りまとめています。2019年度は、英文書籍が6冊、和文書籍が3冊発刊されました。

研究プロジェクト「アフリカにおける民族多様性と経済的不安定」の研究成果をまとめた『From Divided Pasts to Cohesive Futures: Reflections on Africa』では、アフリカ大陸の歴史の考察を通して、アフリカの多様性の現状を理解し、より信頼関係のある社会の構築に向けた方策を検討しています。

和文書籍では、日本の国際教育協力研究の成果をまとめた『日本の国際教育協力—歴史と展望』を刊行しました。また、日本の途上国開発への貢献を長期的な観点から分析する「プロジェクト・ヒストリー」シリーズの第24・25弾として、ボスニア・ヘルツェゴビナでの農業支援を通じた民族融和と紛争後の復興、フィリピンのミンダナオの平和構築を取り扱った2冊の書籍も発刊しました。

このほか、研究成果は書籍や学術誌、学会発表などを通して発表されており、学識者に広く共有されています。

## 2. 国際機関、研究機関との連携

JICA緒方研究所は、内外の研究機関や援助機関とのパートナーシップに基づくネットワーク型の研究を重視



第4回ナレツジフォーラム

しています【→ 下事例を参照ください】。

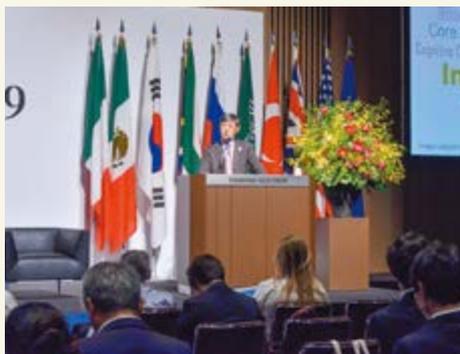
例えば、米国のブルッキングス研究所と約1年間共同でSDGsの中心課題「誰一人取り残さない」に関する研究を進めてきました。その成果である書籍『Leave No One Behind: Time for Specifics on the Sustainable Development Goals』の発刊セミナーを2019年10月にニューヨークとワシントンで開催し、SDGs達成に向けて世界はどう変わるべきかについて議論しました。

また、米国のコロンビア大学政策対話イニシアチブとの「アフリカにおける質の高い成長」の共同研究の成果である書籍『The Quality of Growth in Africa』を2019年8月に刊行し、第7回アフリカ開発会議(TICAD7)に合わせて発刊セミナーを開催しました。

研究内容や出版物などの詳細は → [JICAウェブサイト](https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/index.html) 「JICA緒方研究所」 <https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/index.html> をご覧ください。

## Think20 (T20) Japan 2019

### G20に対する政策提言に向けた協働



T20本会合で基調講演を行う北岡理事長

Think20 (T20)とは、G20におけるアジェンダや機能ごとに形成された複数の団体(エンゲージメント・グループ)の一つです。T20では毎年10前後のタスクフォースが立ち上げられ、その下で各国のシンクタンクが政策課題について議論し、G20参加国に対して政策提言を行います。

2019年5月に東京で開催されたT20本会合(T20 Japan)は、同年6月開催のG20大阪サミットへの知的インプットを目的としています。

JICA研究所(当時)は、「持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)」と「アフリカとの協力」の2つのタスクフォースの共同議長を務め、T20 Japanのビジョンである「持続可能・包摂的・強靱な社会の実現に向けて」を推進するための政策提言集を発刊しました。また、SDGs達成に向けた各国の研究者とのパネルディスカッションを共催するなど、T20公式サイドイベントにも貢献しています。